

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災。私たちは、大自然の計り知れない力を目の当たりにすると同時に、人間は、生態系を構成する一生命体として自然の中で生かされ、人と人とのつながりの中で互いに支え合って生きていることに改めて気付かされました。それは取りも直さず、人と自然、人と人との「絆」の大切さを教えてくれました。琵琶湖と私たちの関係にも相通じるものがあると感じています。

400 万年の悠久の歴史の中で、固有で多様な生態系を育ててきた琵琶湖は、私たちに幾多の試練とともに豊かな恵みをもたらしてきました。私たちの心のよりどころとして大きな存在である琵琶湖を、私たちは畏敬と思慕の念を込めて“母なる湖”と呼んでいます。

その琵琶湖を健全な姿で次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちの大きな使命です。そして、その使命を確実に果たすためには、私たち一人ひとりが、琵琶湖とその周りに生きる数え切れない命と命の「絆」をも確かめ合い、琵琶湖のことをより深く知り、主体的な保全行動へと高めていくことが、何よりも重要です。

「琵琶湖と人との共生」のための道しるべとして、2000 年 3 月に策定したマザーレイク 21 計画も、策定から 11 年あまりが経ちました。その間にも、琵琶湖には様々な変化が現れました。それらは、琵琶湖とその周りに生きる命のつながり、生態系に深刻な事態が生じていることを示しているのではないかと危惧しています。そうした事態を引き起こしている原因は、琵琶湖の流域に住む一人ひとりの暮らしの中にもあるのではないのでしょうか。

今回の改定における二つの柱、「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の関わりの再生」は、こうした問題意識に立って設けました。また、この計画を県民の皆さんとの絆のもとに、多くの方々と一緒に進んでいく「マザーレイクフォーラム」も設けることとしました。

いよいよマザーレイク 21 計画の第 2 期がスタートします。

私たちは、今、時代の転換点に立っています。県もこれまでの反省を踏まえ、連携・つながりのもとで施策を展開してまいりたいと考えています。

今こそ命の絆を結び直す時です。決して平坦な道ではありませんが、共に手を携え、琵琶湖とともに歩んで行こうではありませんか。

平成 23 年 10 月

滋賀県知事

嘉田由紀子